

シェルブールの雨傘

観賞日 2022年1月10日

【概要】

制作 1964年 フランス 上映時間 91分
監督・脚本 ジャック・ドゥミ
音楽 ミシェル・ルグラン
撮影 ジャン・ラビエ
出演 カトリーヌ・ドヌーヴ (ジュヌヴィエーヴ)
ニーノ・カステルヌオーヴォ (ギイ)
マルク・ミシェル (ローラン・カサル)



【あらすじ】

- 1957年11月 フランス北部の港町シェルブール。雨傘屋の娘ジュヌヴィエーヴは近所の自動車修理工のギイと恋愛関係にあった。母娘の傘屋の経営は思わしくなく母親はやむなく真珠のネックレスを宝石商のカサルに売る。当時のフランスはアルジェリア戦争の真只中で、ギイも徴兵される。若い二人は帰還後の結婚を誓い、最後の晩に愛し合う。
- 1958年1月 妊娠したジュヌヴィエーヴ。母親はカサルを食事に招く。思いがけないカサルからのプロポーズ。とまどい悩む母娘。「愛するギイか金持ちで誠実なカサルか」思い悩むジュヌヴィエーヴにカサルはお腹の子どもも引受けると話す。結局、ジュヌヴィエーヴは「大きい雨傘 (カサル) を選ぶ」
- 1959年3月 帰還したギイはジュヌヴィエーヴが結婚し引越したことを知り驚く。亡くなった叔母の財産を処分しガソリンスタンドを経営、叔母の面倒を見てくれていたマドレーヌと結婚する。
- 1963年12月 ある雪の日。久しぶりにシェルブールに寄ったジュヌヴィエーヴは給油のため訪れたガソリンスタンドでギイに再会する。驚くギイ。ギイへの想いを断ち切れないジュヌヴィエーヴとジュヌヴィエーヴへの想いを必死に断ち切るギイ。
戦争に翻弄された過去。幸せを目指す未来。必死に歩もうとする二人。

【解説】

■ポイント

●時代背景 (アルジェリア戦争の真只中)

アルジェリアがフランスからの独立を求めた戦争。1954年に激化。1958年、ド・ゴールの復帰後、1961年の国民投票を経てアルジェリアが独立

●画期的なミュージカル作品

従来のミュージカル映画と違い、全編の台詞が歌で綴られているのが画期的。但し、歌は歌手による吹き替えによるもの。

■見どころ

●カトリーヌ・ドヌーヴの出世作

当時20歳。まるでフランス人形のような可憐さ。大女優の予感。

●テーマソング

ミシェル・ルグラン作曲のテーマ曲は哀愁を帯びた名曲で大ヒット。

●ラストの雪のガソリンスタンド別れのシーン

